

活力あふれる農村地域の発展事例から学ぶ
— 土地改良事業の実施地区から —

令和5年3月
農林水産省

本事例集について

- 1 本事例集は、土地改良事業の実施を契機として、高収益作物の導入や農作業の効率化が進展し、所得や販売額が向上した事例や、就業機会が創出されるなど、地域振興に結びついた事例を紹介するものです。第9弾では以下のテーマに沿った事例を紹介しています。

- ① 食料安全保障の強化（食料安保）

食料安全保障の強化に向け、水田の畑地化・汎用化、畑地かんがい施設の整備等により、麦・大豆等への転換や高収益作物の導入等が進展した事例を紹介しています。

- ② デジタル田園都市国家構想の実現（デジ田）

デジタル田園都市国家構想の実現に向け、自動走行農機やICT水管理等のスマート農業の導入、デジタル技術等も活用した地域の特色をいかした取組による中山間地域の活性化等の事例を紹介しています。

- ③ 団体営事業の実施（団体営）

市町村や土地改良区等が主体的に地域のニーズに応じたきめ細かな整備を実施した事例について、団体営での実施に至った経緯等を含めて紹介しています。

- ④ 女性活躍の推進（女性活躍）

基盤整備やそれを契機とした地域の取組に女性が積極的に参画し、労働環境の改善や商品開発等に多様な視点を取り入れ、地域を活性化した事例を紹介しています。

- 2 本事例集に関するお問合せはこちら

農林水産省 農村振興局 設計課

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

TEL：03-3502-8956

- 3 過去の事例集（第1弾～第8弾）はこちら

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/kousyueki-zirei.html>



取組事例集 目次

都道府県 市町村	地区名	事例	観点				主な作物	キーワード	頁
			食料安保	デジ田	団体営	女性活躍			
北海道士別市	上士別	基盤整備を契機としたスマート農業の導入による生産コストの削減		○			水稲、小麦、豆類	スマート農業、農地集積、機械化	1
岩手県花巻市	小瀬川	スマート農業の導入と若手従業員の確保により経営の発展を目指す		○			水稲、小麦、大豆	スマート農業、環境配慮、担い手育成	2
宮城県栗原市	金田	中山間地域における持続可能な農業経営の取組			○		水稲、花き	6次産業化、輸出、雇用創出	3
秋田県鹿角市	末広	基盤整備を契機とした「ねぎ」のブランド産地化に向けた取組	○				水稲、ねぎ、キャベツ	機会化、ブランド化、雇用創出	4
福島県南相馬市	飯崎	先端技術を活用した省力化・効率化の取組		○			水稲、大豆、玉ねぎ	スマート農業、農地集積	5
茨城県常陸大宮市	三美	基盤整備を契機とした高収益作物の生産拠点化と有機栽培の推進	○				かんしょ、にんじん	農地集積、環境配慮、6次産業化、食育	6
栃木県宇都宮市	上駒生	特色ある地域資源を活用したいちごの産地化に向けた基盤整備			○		いちご	ブランド化、6次産業化、農地集積	7
栃木県芳賀郡芳賀町	稲毛田	園芸産地づくりに向けた基盤整備の取組	○				梨、キャベツ、ねぎ	畑地化、農地集積、ブランド化	8
山梨県甲州市	神金	Uターン就農者が伝統野菜を継承し地域農業を守る取組	○				大豆、さといも、だいこん	環境配慮、食育、地産地消	9
新潟県長岡市	栃堀	地域ビジョンに基づく基盤整備を契機とした中山間地域の活性化		○			水稲、白ねぎ、山菜	6次産業化、ブランド化、交流人口拡大	10
富山県富山市	水橋常願寺	大區画水田ほ場における高収益作物の省力機械化一貫体系の実証		○			水稲、たまねぎ	スマート農業、機械化	11
福井県大飯郡高浜町	青郷内浦	農産物のブランド化と多角的農業による中山間地域の活性化		○			水稲	6次産業化、ブランド化、交流人口拡大	12
岐阜県恵那市	恵那北部	「日本一の栗園」を目指し樹園地開発	○				栗	法人化、環境配慮、交流人口拡大	13

取組事例集 目次

都道府県 市町村	地区名	事例	観点				主な作物	キーワード	頁
			食料安保	デジ田	団体営	女性活躍			
三重県度会郡玉城町	原	基盤整備を契機とした高収益作物(キウイフルーツ)の導入			○		キウイフルーツ	農地集積、スマート農業、ブランド化	14
滋賀県東近江市	蒲生南部	地域ぐるみで水田を汎用化！大豆の契約栽培拡大で経営を安定！			○		水稻、麦、大豆	輸出、契約栽培	15
兵庫県たつの市	金剛山	ICT水管理を用いたスマート農業と「地域防災」への取組		○			水稻、そば、小麦	田んぼダム、スマート農業、6次産業化	16
和歌山県有田郡有田川町	有田川	基盤整備を契機とした観光ぶどう園「有田巨峰村」の取組				○	ぶどう、柿	観光農園、6次産業化	17
広島県安芸高田市	原山	基盤整備により営農効率が良く生産性が高い営農への転換	○				キャベツ、レタス	農地集積、担い手育成、雇用創出	18
山口県防府市	下津令	ほ場整備を契機とした集落営農法人の営農展開	○				水稻、小麦、たまねぎ	農地集積、雇用創出	19
徳島県阿波市	美納池・池下	「基盤整備」+「高度環境制御栽培施設」+「企業誘致」の取組	○				レタス、白ナス	スマート農業、雇用創出、担い手育成	20
香川県観音寺市	油井北側	地域の一体的な営農を補完する小規模な基盤整備の取組			○		水稻、麦、レタス	環境配慮、農地集積、担い手育成	21
愛媛県東温市	牛湫	基盤整備と排水対策の両輪で優良農地と担い手を確保する			○		水稻、麦、大豆	機械化、新規就農	22
佐賀県小城市	三日月	農業法人の働きやすい環境を目指した女性経営者の活躍				○	水稻、麦、大豆	ブランド化、担い手育成、農地集積	23
長崎県佐世保市	針陽	マルドリ方式による温州みかんのブランド産地化に向けた取組	○				みかん	スマート農業、農地集積、ブランド化	24
熊本県玉名郡和水町	十町	地域団体「夢ランド十町」を核とした「みんなが主役のむらづくり」				○	水稻、WCS、いちご	雇用創出、移住者増加	25
沖縄県糸満市	喜屋武	基盤整備を契機とした「美らキャロット」ブランドの確立				○	さとうきび、にんじん	ブランド化、地産地消	26

基盤整備を契機としたスマート農業の導入による生産コストの削減

しべつし
【北海道士別市】

食料安保

デジ田

団体営

女性活躍

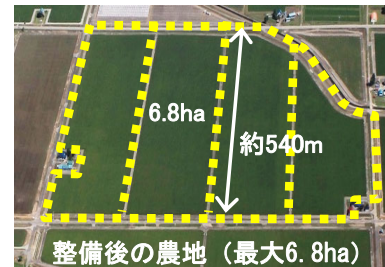
【工夫のポイント】

- 基盤整備により、長辺540mを超える**大区画ほ場(最大6.8ha)**を整備。
- 事業を契機に**法人に集約**。
- 用排水施設のパイプライン化により**水管理作業の省力化**を実現。
- ほ場の大区画化に合わせて、更なる生産性の向上を図るため、**スマート農業を積極的に導入し、生産コストの削減を推進**。

基盤

農地の大区画化と営農作業の効率化

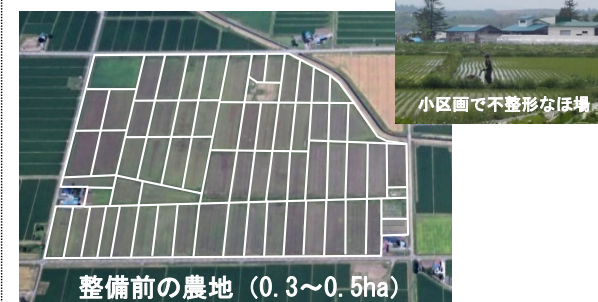
- 区画整理により最大で6.8haの農地へ大区画化、ターン農道の設置。
- 用排水施設のパイプライン化や給排水施設を農道沿いに配置することにより**水管理作業を省力化**。



基盤整備
(H21年～R3年)

【整備前】

ほ場は**小区画で不整形**であり、農作業に支障を来しており、**大型機械の導入も困難**な状況。



【取組地域の概要】

○位置 しべつし
北海道士別市



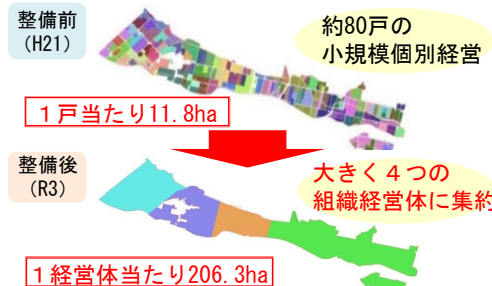
○主要作物
・水稻、小麦、豆類

○主な支援施策
・国営農地再編整備事業(H21～R3)
・国営農地再編整備IT農業推進事業(士別市単独 H26～H27)

担い手

経営体の集約

- 事業を契機として、約80戸の個別経営から、**大きく4つの組織経営体に集約**され、営農の効率化が実現。



地域の取組

スマート農業への取組

- 担い手を中心として、平成24年に「**上士別IT農業研究会**」を設立し、農作業の自動化、無人化を目指す。

- 士別市が、**無線基地局の設置やGPSガイダンスの導入を支援**。(平成26,27年度)

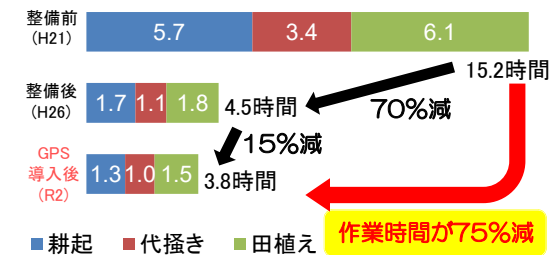


農作業労働時間の削減

- 大区画化による**機械作業の効率化**や、農道沿いに給水栓等を配置したことによる**水管理作業の省力化**が図られ、**労働時間が削減**。

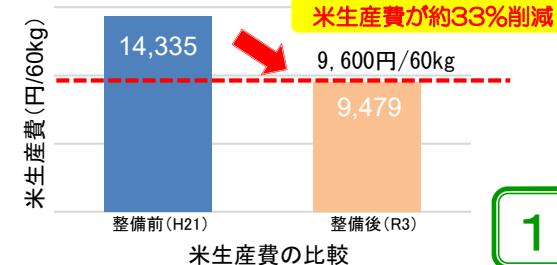
- 無線基地局の設置により**GPSガイダンスを搭載した農作業機械の導入が可能**となったことで更なる省力化が実現。

農作業機械稼働時間の比較



米の生産コストの削減

- 水稻生産の省力化等を通じて、目標とする**9,600円/60kg以下を達成**。



【工夫のポイント】

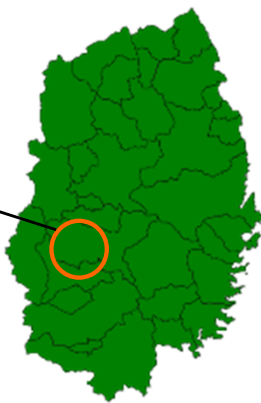
- 農業法人が地区の担い手として基盤整備後の農地を集積。
- 田植え、収穫や水管理に、スマート農業技術を積極的に導入。
- 労働力として地区内外から若手従業員を確保。
- 労働時間の削減や機械費の低減により生産費の削減に取り組む。
- 今後は、畜産農家と連携し、地域内での循環型農業の構築を目指す。

【取組地域の概要】

○位置 はなまきし
岩手県花巻市

岩手県

こせがわ
小瀬川地域



- 主要作物
・水稲、小麦、大豆、雑穀等
- 主な支援施策
・県営農地整備事業（経営体育成型）
(H23～H29)

ほ場整備による営農の効率化

30～50a区画に拡大。用排水路を分離、パイプライン化することにより、水管理の合理化と用水の安定供給を実現。



整備後

【整備前】

区画は10～20aと小さく、水路は用排水路兼用の素掘りで断面が狭小。



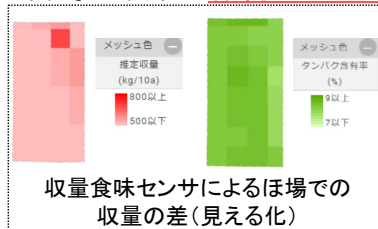
整備前

基盤整備

(H23年～H29年)

スマート農業技術の導入

- 直進アシスト田植機を導入し技術を平準化。
- 水位センサの設置により水管理を省力化。
- 収量・食味センサ付きコンバインを導入し、ほ場ごとの収量等を見える化することで、施肥設計等に反映し作物の収量が向上。



収量・食味センサ付き
コンバイン

生産現場

農業法人設立による営農体制の強化

- 平成17年に設立した「有限会社鍋割川ユニオン」は、正社員9名のうち、40代以下は5名(うち3名は地区外)と若手従業員の確保育成を行う。
- 基盤整備後、地区内農地の約8割を集積。



鍋割川ユニオンの皆様

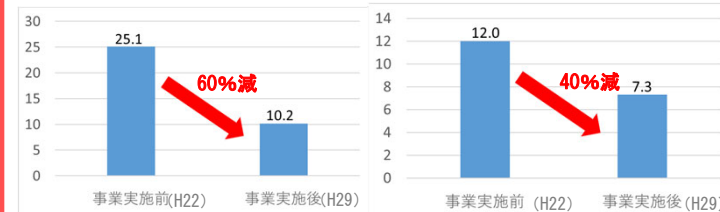
担い手

生産コストの低減による収益力の向上

- 水位センサの設置により、見回り時間を1/3程度に低減。大区画化や畦畔管理の作業委託などにより、労働時間は全体で60%削減。
- 中古機械の活用や、米・麦・大豆の収穫への汎用コンバインの活用などにより、米の生産費は40%削減。

<労働時間> (時間/10a)

<生産費> (万円/10a)



- 肥料の高騰など外部環境の変化に伴い、近隣の畜産農家との連携し、家畜排泄物を活用した土づくりを行うなど地域内での循環型農業の構築を目指す。